原文リンク：<http://www.zerohedge.com/news/2013-06-28/guest-post-what%E2%80%99s-so-scary-about-deflation>

ゲスト投稿：デフレの何が恐ろしいのか？

[ルードヴィヒ・フォン・ミーゼス協会](http://mises.org/daily/6459/Whats-So-Scary-About-Deflation)経由でFrank Hollenbeckからの投稿です。

**デフレの話題になると、主流とされる経済学は常識に基づいた科学でなく根拠のない科学に化けてしまいます。**今日の経済学者はたいていの場合、すぐに「多少のインフレは良い事だ」と言いますが、本当に言いたいのはデフレが恐い、ということです。もちろん、彼らにしたって私生活に戻れば新聞を開いて「本日の特別セール」を一生懸命漁るのですが。

**デフレの恐怖を最もよく体現しているのは連邦準備制度理事会の議長、ベン・バーナンキです。彼は大恐慌を理解する過程で、歪んだデフレの見方を身につけてしまいました。**大恐慌とデフレがいくつかの国で同時に起こったのは事実です。しかし、関連づけることと因果関係を特定することは注意深く区別する必要があり、因果関係は正しく評価しなければいけません。17ヶ国における180年間の歴史を追ったAtkesonとKehoeの最近の研究結果によると、デフレと不景気には何の関連も見つかりませんでした。この研究によると、不景気時にはデフレよりもインフレのほうが遥かに多く見られます。調査対象の期間において、73回起こったデフレのうち65回は不景気が伴わず、29回起こった不景気のうち21回はデフレが伴っていませんでした。

**デフレ反対論の主な根拠は、物価が下がる間消費者は将来にもっと値段が下がるのを待つため購買を控える、というものです。**もちろんそれにより現在の需要が減り、それがさらに物価を押し下げ、さらに・・・と、経済がデフレ−不景気の悪循環に落ちるまで続きます。ここでは、因果関係ははっきりしています。デフレが 不景気を起こすのです。経済学の入門書を読めば、ほとんどの本にそう書かれています。**セントルイス連邦準備銀行が最近発表した内容を抜粋します：**

|  |
| --- |
| 「物価下落は魅力的に聞こえるだろうが、デフレが実は困った事態なのはいくつも理由がある。消費者が更に物価が下がるのを期待して購買を控え、代わりに貯蓄に励んで更なる物価下落を待つため、デフレは消費と投資を冷え込ませるのだ。消費が減ると企業の売り上げや利益が減少し、結局は失業率が増える事になる。」 |

この考え方にはいくつも問題点があります。

|  |
| --- |
| **第一に、消費材の物価がどれだけ下がる見込みがあっても、現在消費される額は必ず一定の割合で存在します。**そのため、 将来にわたって消費材が供給されるよう投資を行うという意味で、今現在購買を行わなければいけません。ハイテク製品の多くは、デフレ環境下にも関わらず堅調な需要を維持しています。ほとんどの人はiPhoneが6ヶ月経てばかなり値下がりするのを知っていますが、それにも関わらずアップルは最新型のiPhoneを大量に販売できます。    **第二に、私たちは過去の行動にのみ基づいて将来の予測を行う、と（誤った）仮定をしています。**物価が下がれば、将来はもっと下がると予測するだろう、というわけです。しかし当然ながら、私たちの予測は多くの要素から出来上がっており、物価はそのうちの一つにしかすぎません。2001年のドットコムバブル直後とは異なり、今回は低金利への反応が薄かったので、連邦準備銀行の経済学者達は驚いただろう、と私は確信しています。人間の行動は、生物学の実験でマウスの反応を予測するようにはいきません。    **第三に、もし消費が減っているなら貯蓄が増えているはずだ、という仮定に問題があります。**それならば投資額が（代わりに）大きくなっているはずだからです。貯蓄が増えればデフレが起こりますが、需要の総額は減りません。需要の内容が変化するだけです。消費材の需要は減るでしょうが、資本財の需要がそれを補います。そしてむしろ、成長は促されます。より多くの資本が市場に出回るため、  より多くの消費材が将来には確保されるのです。 |

**経済成長につれて、物価は下がります。（良い事です。）**アメリカの歴史上最大の成長期は19世紀に存在します。1820年から1850年にかけてと1865年から1900年にかけて起こり、著しいデフレが伴いました。どちらの例においても、物価は半減しました。

**簡単な例を引き合いに出して、この点を解説してみます。**ここに鉛筆が10本と現金が10ドル存在するとします。鉛筆の価格はいくらになるでしょう？1本2ドルでは鉛筆が売れ残るので駄目です。値段は下がるでしょう。50セントではお金があっても買うモノがない事態になるので、これも駄目です。値段は釣り上がるはずです。結局釣り合いがとれて、鉛筆は1本1ドルで売られます。ここで、鉛筆の量が2倍に増え、鉛筆20本と現金10ドルが存在するとします。鉛筆の値段は1ドルから50セントに下がります。現金の量など、他の条件が変わらないとすると、値段は半減し、この場合はドル当り得られるモノやサービスが増えるので、とてもよいことです。そして、社会がモノ不足の限界を超える能力を持っていることを示します。物価が全てゼロになってしまうので、モノ不足が全て解消することはあり得ませんが、物価が下がっている事実は私たちがこの大切な戦いに勝利しつつあることを意味しています。全員により多くのモノやサービスが行き渡るのは良いことで、デフレはこうした潤沢さの増加を反映しています。

**経済学者の多くが恐怖を覚えるデフレについて話しましょう。**鉛筆の製造コストが80セントだと仮定します。その場合の利益率は25%です。ここで、人々が5ドルぶん抱え込んで、貯金する代わりにタンス預金にしてしまうと仮定します。鉛筆の値段は半額になり、1本1ドルから50セントになります。原価も40 セントに下がるのであれば、利益率はやはり25%なので、問題はありません。経済学者が恐れるのは、原価は固定的で売値に合わせて変動せず、企業は80セントで作り続けて50セントで売る羽目になることです。それにともなって倒産、失業、生産量の低下が起こり、鉛筆は結果として8本しか生産されないとします。タンス預金はさらに増加するでしょう。そして倒産はさらに増加し、と同じ事態が繰り返されるのがわかりますね。こうした事態を避けるために、たいていの経済学者は政府が5ドルを発行して鉛筆の値段を1ドルにとどめ、経済がデフレスパイラルに落ちるのを防げ、と主張します。

この話にはもちろん、大きな問題がいくつもあります。**変動しにくい要素を常に抱えているのは原価も売値も同じです。**誰だって給料の額を常に交渉したり、最新映画のチケット料金を一時間毎にチェックなんてしたくないでしょう。ですので、重要なのは原価と売値の変化に時間差が存在するかどうか、になります。時間差が短いと、上記の政治的な手段は不必要だし、逆効果になります。また、起業家は売値を予測して原価を目標に近づけることで生活の糧を得ています。それはつまり、時間差は比較的短く済むだろう、ということを示唆しています。

**また、紙幣の印刷は市場を破壊します。**政府が市場に5ドルを追加するのは、中立的な行為ではありません。お金を最初に受け取る人達、つまり政府と銀行は利益を享受し、お金を後に受け取る人達、つまり給与生活者と貧乏人は損失を被ります。通貨の発行とそれによる物価への影響はロビン・フッドの活動を逆にした形で、貧乏人のお金を搾取して金持ちへ渡すことです。選考して利益を享受する人々（富裕層）はお金を好きに使い、相対的に物価を変動させます。

**経済が回復し、人々がタンス預金をやめるとどうなるでしょうか？**今や10本の鉛筆と15ドルの現金が存在することになります。政府が自ら投下した5ドルを回収しない限り、鉛筆の値段は1ドルから1.5ドルに上がります（他の要素が変動しなければ）。もし政府が5ドルを回収しても、物価を再度、相対的に変動させることになります。（経済の）特効薬は病よりも深刻な結果をもたらすのです。

多くのモノが存在する世界では、**過度の与信が引き起こすインフレ（資産価格を含む）は物価を相対的に変化させて持続不可能なレベルの投資を招きます。例えば2001年〜2007年の不動産市場などです。**デフレは、それが起こっている間は、こうした相対価格を社会で本当に必要とされるレベルまで部分的に調整する役割を担っています。通貨を発行するということはそれだけで、こうした根本的な浄化プロセスを阻害します。真の解決法は、部分準備銀行制度と中央銀行制度を廃止することです。

**インフレは給与生活者と貧困層から搾取するので、デフレよりはるかに悪質です。**中央銀行こそがインフレの主な原因で、収入の格差が広がっている主な理由でもあります。金持ちはより金持ちになり、中産階級は貧困層に没落していきます。ブレトン・ウッズ体制が1971年に崩壊して不換紙幣に移行して以来、この収入の変化は自明であり、かつ悪化しています。中央銀行の権力は、いかにインフレを引き起こせるかにかかっているのです。

**だからこそ、現在の中央銀行の政策を理論的に裏付ける経済研究を行っているならば、中央銀行は多数の学術機関に対して気前よく援助を行うのです。**「多少のインフレは良い事だ」が、よくある誤りであるにも関わらずメディアや経済学者によって詳しく語られているのは理由があるのです。インフレは財布の中にあるお金の価値を奪うので、皆が寝ている間に盗みを働く行為と言えます。35年にわたってインフレが2%続くと、財布の中のお金の価値は50%減ります。悪の親玉は今や、新しい様相を呈しています。それは中央銀行と呼ばれるものです。

**多くの場合、中央銀行が引き起こすインフレの後にはデフレが続きます。**デフレは、中央銀行が引き起こす過剰政策を打ち消すために必要なプロセスの一部なのです。オーストリア学派の経済学者が常に発言してきたように、「不景気でなく、好景気を恐れよ」なのです。通貨を発行することでバブルを延長させたり新たなバブルを起こし、それによりデフレが遅れると、調整期間がより苦痛になるだけです。

真の解決法は部分準備銀行制度と中央銀行を廃止することです。**部分準備銀行制度と中央銀行制度が存在しない世界は、緩やかにデフレが進行する世界です。それは、全員の生活水準が上昇するという、人類がこれまで達成した中でも最高の業績の一つとして数えられるはずです。**